

第2節 計

ど県民生活をとりまく環境は、昭和40年代当初に比し、現在概ね良好な状況に保持されてきている。

しかしながら、宮城県新長期総合計画の主要指標によると、昭和65年までには人口が30%増加し、経済の規模は2.7倍に達するものと見込まれており、このため、住宅地、工場用地など都市的な土地需要の増加が予想され、また、大気、水質などの環境に対する負荷も増大するものと予測される。さらに、県民の環境に対する欲求は、生活水準の向上や余暇時間の増加により、高度経済成長期に急速に失われた近隣の緑や水辺、静けさなど、環境の快適さを求めるものへと質的に変化し、かつ、高まってきており、今後とも増大していくものと思われる。

このような長期的発展と県民ニーズの増大に対処し、県土の秩序ある発展を図るためには、県土は現在及び将来にわたり県民の限られた資産であり、その環境は精緻な生態系から成る有限なものであるとの認識のうえに立って、県土の環境が持つ特徴を十分考慮し、総合的かつ計画的に秩序ある県土利用を進めることが特に重要である。

このためには、県土の環境が持つ特徴や地域住民の意向なども踏まえた望ましい環境の形成を図ることが必要で、そのための諸手段を相互に体系づけ、これらを総合的かつ計画的に運用するための指針としての計画の策定が、昨今の課題として提起されるに至っている。

主 要 指 標

| 区 分 | 実 数 | | 伸 び 率 (%) 65/50 | 年 率 (%) 50 ~ 65 |
|--------------------------------|----------|----------|--------------------|--------------------|
| | 昭 和 50 年 | 昭 和 65 年 | | |
| 総 人 口 (千 人) | 1,955 | 2,545 | 130.2 | 1.8 |
| 総 世 帯 (千世帯) | 527 | 777 | 147.4 | 2.6 |
| 人口集中地区人口 (千 人) | 912 | 1,524 | 167.1 | 3.5 |
| 県 内 総 生 産 (億 円) | 24,814 | 66,955 | 269.8 | 6.8 |
| 工 業 出 荷 額 (億 円) | 12,088 | 37,811 | 312.8 | 7.9 |
| 農 用 地 ・ 森 林 (km ²) | 5,958 | 5,878 | 98.7 | △0.1 |
| 市 街 地 (km ²) | 143 | 244 | 170.6 | 3.6 |

本計画は、前節
 げる「快適な県土
 快適な県土環境一
 「真の豊かさ」
 それぞれ調和のと
 は、徒らに一方に
 のある環境でなけ
 大気、水、大地
 が、無限、無尽蔵
 を損ねるような無
 本県の県土環境
 スを失することも
 態を保持している
 と同時に、「真の
 貴重な資産の活用
 制しようとするこ
 このためには、
 一里塚となるもの
 汚染されない青
 通の願望である。
 されるこれらの環
 「Amenity」の
 「Amenity」
 ABC計画と名づ

第3節 計

本計画は、宮城